

C-58 棒針編・かぎ針編・アフガン編の編地の特性について(第1報)
昭和女大短大 O谷井淑子 岡野都 黒滝直子 高梨小夜子

目的 編物には棒針編(手編み機械編を含む)・かぎ針編・アフガン編の三種がある。それぞれ用具・編み方および編成される編地の特性もまったく異なる。したがって編物作品制作についてデザイン・配色・編方上の工夫とともに、編地の特性を配慮した上でのゆるみ量、寸法の決め方、用途による編地の選択がされることが望ましい。以上によって、編地の基本的特性を把握することを目的として次の実験を行った。

方法 ①供試糸 K社S印No.55 中細毛糸, ②編方・編針・gaugeは別表の通りであるが、編み地は最もプレーンなものを、各実験に適切な大きさに編成した。

編み方	編 地	編 針	gauge(目数×段数/10cm)
棒針編	手 編	M社MH-10型手編機編目4	32 × 46
かぎ針編	こま編	K社 かぎ針 4号	26 × 30
	長 編		26 × 12
アフガン編	表アフガン編	K社アフガン針 5号	24 × 18

結果 編地の静的特性である重さ(毛糸使用量)・厚さ・かさ高度・ループ長・カバーファクター・見掛比重・気孔容積については各編方間に特性がみられ、実用的特性である伸長力および伸長率・伸長回復率および残留ひずみ率・応力緩和率には各編方間とそのウェール・コース方向に、圧縮率および圧縮弾性率・膨張弾性率は、各編方間にかなりの差異特性があるので、編物作品制作上、ゆるみ量・寸法の決め方などについて勘案する必要があると認められた。